

上越市原子力災害に備えた屋内退避・避難計画（初版）[案]  
に関する市民説明会（柿崎区）での主な質問や意見等

- 日 時 平成 27 年 8 月 20 日（木） 午後 6 時 30 分～午後 8 時
- 場 所 柿崎地区公民館 3 階 集会室
- 参加者 111 名

【主な質問・意見等】

○UPZ 外で自主避難者が出る可能性があることから、全市 20 万人に今回のことを周知徹底すべきだが、どうやってそれを行うのか。

⇒これまでも町内会に出向き説明をしており、今回のような説明会やインターネットの活用をはじめ、広報上越や計画の概要版の配布などで周知を図っていく。

○UPZ 外の市民は被ばくすると考えているか。被ばくするなら計画でどのように対応していくのか。

⇒UPZ 外にも影響が及ぶ可能性があることから、その場合は UPZ と同様に、放射線量を測定して必要な対応を図っていく。また、市内には放射線の測定器が 2 か所しかなく、十分ではないと認識しており、そのため県への要望を行っているところである。

○UPZ の市民が境界を出たすぐ側に避難する計画でよいのか。その場所は安全であるのか。

⇒放射線量の測定結果に基づき判断し、影響のない区域はそのまま、影響のある区域は避難となる。UPZ 外でも影響の可能性はある。どこの放射線量が高いか低いかは、その時の状況による。計画を策定するためには前提が必要であり、国の原子力災害対策指針に基づき発電所から 5～30 km 圏内を重点的に対策を実施する UPZ として、計画をまとめたもの。

○想定外のことも想定してもらいたい。そのためには福島を検証が必要であるから、しっかり検証してほしい。

⇒福島を検証はそのとおりだと考える。福島の教訓から、正確な情報入手が必要だと考えている。災害時はまずはあわてないで、市ではしっかりと情報を出すので、市からの情報を信用してもらいたい。また、今回の計画は、UPZ 内の市民の避難先を県内で確保できたことを踏まえ、まとめたもの。

○周知方法は広報上越などで足りるのか。命に関わることである。福島を見ていないからこのような受け身な説明になる。これでは周知徹底できないので、しっかり福島を見て学んでもらいたい。

⇒ご意見の意図を理解できないが、是非、具体的な提案をいただきたい。多くの方々に受け入れられる内容であればしっかりと対応していきたい。

○原子力災害はやはり複合災害が前提だと思うので、その状況において車で避難できるのか計画で検討してもらいたい。また、渋滞が発生することから自家用車の乗合だけでは難しいと考える。

⇒全てのことを想定しようとする、計画はいつまで経っても策定できないことから、今回は今整理でき得るものをまとめた。よって、計画は完成形ではないが、これを1つの柱として、複合災害など様々な状況に対応していきたい。また、渋滞を極力防ぐためにも、まずは屋内退避を行い、避難指示が出るまでは屋内退避を継続していただきたい。

○SPEEDIの活用を検討すべきではないのか。

⇒風向きなどの不確定要素があるなどのことから、SPEEDIによる予測は避難時に使用しないこととなった。そのためモニタリングによる放射線量の測定をしっかりと行うこととしていることをご理解いただきたい。

○区内の要配慮者の18施設はどうやって対応していくのか。

⇒各施設が避難計画を策定するため、施設間の調整などを今後県が進めていくこととしており、県はまずはPAZ内の施設の計画策定のための検討を優先に進めている。

○津波などの複合災害の場合でも屋内退避をしていなければいけないのか。

⇒津波からの避難など命を守る対応を優先する。

○安定ヨウ素剤はいつ、どのように受け取るのか。

⇒安定ヨウ素剤を配布する体制は県や県内市町村と検討を進めているところである。なお、本市には原子力アドバイザーがおり、いざという時には、市独自の判断で配布を行うこともある。配布・服用の指示は原子力規制委員会の判断の基で行うが、その基準は示されていない。現在は県が配布・服用などの計画を作成しているところである。

○放射線の影響は子どもに大きいので親は関心が高いと思う。しかし、参加者には子育て世代がほとんどいないので、説明会の開催時間があまり良くないのかなと思う。そういった方にはどのように周知するのか。

⇒今回の説明会は、平日の夕方のほか、日曜日の午前にも設けている。全ての方の都合がつく時間帯での説明会開催は難しいのでご理解いただきたい。子育て世代の方々をはじめ、他に要望があれば説明に出向きたい。

○資料で複合災害を想定せずとなっているが想定しないのか。

⇒複合災害を想定していないということではなく、本計画は1つの柱であり、地震など様々な災害に対応していくものである。

○複合災害を想定しているならば概要版に表記してほしい。

⇒できるだけ対応していきたい。

○周知をする際に重要なのは、町内会長であるのだから、もっと町内会長と話をしてほしい。また、防災士を活用していくべきである。

⇒説明会の方法について、今後の参考にさせていただく。

○放射性物質は五感で感じられないなど恐ろしいものである。だが、その測定器が市内に2か所しかないとのことなので、地区ごとに2つ、3つ設置してもらいたい。

⇒モニタリング体制は十分ではないと考えている。県へは県内市町村とともに増設を要望しているところであり、すぐに対応は難しいが、少しでも早く体制が整うよう努力していきたい。

以上